

# 学校の取組に対する働き方改革推進に向けた視点

◆ ECRSとは、業務改善(効率化・無駄をなくす)を実施する上での順番と視点を示したものです。様々な業種で業務改善に適用されています。働き方改革を進める上で是非活用ください。

## ECRS(イクルス)の4原則

【引用資料】「令和元年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修」  
愛知教育大学・教職大学院 倉本哲男 教授 配布資料

### ① Eliminate(エリミネート) 【排除】(作業をなくせないか、やめられないか)

- ・ 目的を再確認し、目的に対してあまり必要のない作業は排除。  
(例) ・ 会議の参加者を削減 ・ 会議、行事等の精選 等

### ② Combine(コンバイン) 【結合】(複数の作業をまとめて同時に行えないか)

- ・ 作業を結合して行うことで、より効率的なプロセスができ、所要時間の短縮につながる。  
(例) ・ 学校行事と総合的な学習の時間内の活動を目標や内容を踏まえ重ねる。  
・ 学力向上と体力向上の会議をまとめて行う。 等

### ③ Rearrange(リアレンジ) 【交換】(作業の順番を変更できないか)

- ・ 工程(順序)の変更により所要時間の停滞時間が大幅に削れるケースもある。  
(例) ・ 学期ごとに教育課程の見直しを行う。  
・ 行事の入替により年間の業務の均一化を図る。  
・ 運動会終了後に協議を持ち、変更案を共有し次年度に引き継ぐ。 等

### ④ Simplify(シンプリファイ) 【簡素化】(もっと簡単、単純に作業できないか)

- ・ 作業の一部を省略しても生まれる成果は同じ場合もある。  
(例) ・ 会議資料の配布をやめ、パソコン画面で示す。  
・ 研修等の還流報告内容を要旨3つに絞り報告する。 等